

---

第 374 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2018 年 4 月 19 日(木) 18 時 00 分～19 時 30 分

場 所: 実習館 2 階研究所 セミナー室

演 者: 角 保徳 氏

国立長寿医療研究センター

歯科口腔先進医療開発センター・センター長

タイトル: 創造的研究 (Developmental Research) と分析的研究 (Analytical Research)

『若い研究者が大学院時代や助教時代の研究や経験を如何に自分の人生やキャリアパスに有利に活用するか?』

本講義の目標は標題のとおり、『若い研究者が大学院時代や助教時代の研究や経験を如何に自分の人生やキャリアパスに有利に活用するか?』であり、若い研究者の皆さまに少しでもお役に立てばと考えています。

研究の手法には分析的研究 (Analytical Research) と創造的研究 (Developmental Research) があると考えています。歯学部卒業後、臨床を行いながら長年研究に携わってきて気づくことは、歯科の研究は分析的研究が極めて多いことです。歯科分野の新規技術は私が卒業した時点からほとんど導入されておらず、歯科界の課題となっています。歯科分野の新規技術がなかなか開発できないのは、歯科の研究が分析的研究を主体としており、論文を書くための研究、学位を取るための研究のみに偏っているのではないかと考えています。個人的な意見として、創造的研究のほうが、若い研究者の将来に資することが多いと考えています。

客員教授を務めるある大学の教授から創造的開発研究のノウハウを教えてほしいとの依頼があったので、最近開発を終了したドライマウス患者用の義歯安定剤開発をベースに、嫌われることを覚悟の上で本講義を行うことにしました。皆さまには慣れないテーマでの講義ですので、分かりづらい部分があるかもしれませんが、ご了承ください。

*Matsumoto Dental University  
Graduate School of Oral Medicine*

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,  
Nagano 399-0781, Japan

私は臨床家であり、専属の研究者ではありませんので、研究者の皆さまから見ると稚拙かもしれません。本講義の内容は、先生方の日頃の研究といささか乖離しているかもしれませんが、勝手なことを言うと思われるかもしれませんが、定年前の老人のたわごととお許しいただければ幸いです。

略 歴

- 1981年 東京医科歯科大学 歯学部 歯学科卒業
- 1985年 名古屋大学大学院 医学研究科 口腔外科学専攻 博士課程修了
- 1990年 名古屋大学医学部附属病院講師
- 2004年 国立長寿医療センター病院先端医療部口腔機能再建科医長
- 2010年 独立行政法人国立長寿医療研究センター  
先端診療部歯科口腔外科医長

担当:健康増進口腔科学講座 小笠原 正